

憲法しんぶん 速報版
発行 憲法改憲阻止各界連絡会議（憲法会議）
Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2023年8月3日(木)
NO. 1397号
本号3頁

火箱元陸上幕僚長

“自衛官戦死に備えよ”と、靖国神社「復活」唱える

しんぶん赤旗の報道によると、陸上自衛隊の元制服組トップが、自衛官の戦死に備えて靖国神社を国家の「慰霊顕彰施設」として「復活」させよと公然と主張していることが、改憲右翼団体「日本会議」の出版物の記事で分かったとのこと。

火箱芳文（ひばこ・よしふみ）元陸上幕僚長は『日本の息吹』8月号の「国家の慰霊追悼施設としての靖国神社の復活を願う」と題する記事で、軍事力の抜本的強化を図る安保3文書の閣議決定を「大いに評価」しつつ、自衛隊は国内法的には軍隊ではなく、「旧軍人と自衛官では国家の処遇、国民の意識が格段に違う」などとして、「近い将来国を守るため戦死する自衛官が生起する可能性は否定できない。我が国は一命を捧げる覚悟のある自衛官たちの処遇にどう応えるつもりなのか」と問いかけています。

その上で、戦後、「靖国問題」が放置されているのは「誠に残念」だとしつつ、「国家の慰霊顕彰施設」がない現状を嘆き、自衛官が「戦死」した場合、「筆者ならば靖国神社に祀ってほしい」として、「国家の慰霊顕彰施設」としての靖国神社を復活させ、「一命を捧げた」（戦死した）自衛官を「祀れるようにする制度の構築が急がれる」などと主張しています。

安保3文書に基づく憲法違反の敵基地攻撃能力の保有や、米軍と一体化した自衛隊が米軍の指揮下で相手国を攻撃する体制が強化されるもとの、戦死した自衛官をどう扱うのかという問題が切迫した課題となっていることが、火箱氏の主張からもうかがい知ることができます。

戦争へと駆り立てた靖国神社の復活狙う

このように、自衛官の戦死者を出すことは、絵空事ではなく現実になりかねない切迫した問題となっています。その戦死者の「処遇」を口実に戦争神社としての靖国神社の復権を推し進める狙いがあからさまに語っています。

安倍元首相は2013年12月26日、靖国神社を参拝し、「二度と再び戦争の惨禍に人々が苦しむことのない時代をつくる」との決意を伝えたと、靖国神社をあたかも平和を守る施設であるかのように語りました。しかし、靖国神社は戦前、戦死者を「英霊」「軍神」として祀ることで国民を戦争に駆り立て、戦後は過去の侵略戦争を「正義の戦争」だと正当化してきた施設です。

火箱芳文氏の自衛官の戦死に備えて靖国神社を国家の「慰霊顕彰施設」として「復活」させよとの主張は、再び戦前・戦後の靖国神社が果たした役割のように、戦争犠牲者の遺族を慰め、さらに戦争と向かう若者を鼓舞する施設へと復活させようとするものです。

保険証廃止「断念」でなく、「延期」か「資格確認証」活用？

保険証廃止を断念すれば、全てが解決します!!

岸田首相は、現行の健康保険証を2024年秋に原則廃止してマイナンバーカードに一本化する政府方針を巡り、8日にもマイナカードに関する総点検の中間報告を関係閣僚から受けた後、記者会見で新たな対応策を発表する方向で検討に入りました。廃止期限の延期を視野に入れ、調整を進めています。※「4日に会見し、説明」との報道もあります。

厚生労働省は延期案には慎重な立場のようです。マイナ保険証の未取得者に発行し、医療機関の窓口で提示すれば、保険診療を受けられる「資格確認書」について、有効期限を一律に定めない案

を推しています。政府は有効期限に関し、「1年間を限度に保険者が設定する」との考えを示してきましたが、これを軌道修正する方向のようです。

官房副長官 「資格確認証の有効期限を定めない案が望ましい」と厚労省に

首相の側近である木原誠二官房副長官は31日、厚労省を訪れ、加藤厚労相と面会。加藤氏は2024年秋に現行保険証を原則廃止する方針を維持し、資格確認証の有効期限を定めない案が望ましいとの考えを伝えたと報じられています。

岸田首相は、河野デジタル相や加藤氏、松本総務相らから8日に総点検の中間報告を受け、対応策を最終判断する意向のようです。政府高官は「現状では政府内の意見はまとまっていない」と明かし、「最後は首相がどう決断するかだ」と語っています。

マイナカードを巡っては、コンビニエンスストアで証明書を交付するサービスで誤交付が起き、マイナンバーと預貯金口座をひも付ける「公金受取口座」に他人の口座が登録される事案なども発覚。政府はマイナカードのデータについて、総点検を地方自治体に押し付け、今秋までに完了させるとしています。

カード普及ががんばった自治体に地方交付税 “ご褒美” 優遇

総務省は28日、各地方自治体に配分する2023年度の地方交付税の額を決定しました。配分総額は前年度比1.7%増の17兆2594億円。1688自治体に配られます。

このうち500億円は、住民のマイナカード保有率（5月末時点）が73.25%を超える572市町村に“優遇”する形で配分されます。全自治体の3分の1にあたります。

カードを使った住民サービスの充実を後押しするためと説明しますが、政府の言いつけを守り、普及をがんばった自治体への“ご褒美”に他ならなりません。

さすがに、マイナンバーのトラブルが相次ぐ中でのマイナ優遇策にネット上は大炎上です。

29日付の信濃毎日新聞は、長野県内の自治体の声を報じました。保有率が県内で最低の60.6%だった下水内郡栄村の宮川幹雄村長は、高齢者の多い村ではカードを不要と考えている人もいると指摘し、「保有率に応じて交付額に差をつけること自体、あってはならない」と語っています。

政府はいつもの“アメとムチ”

マイナ普及のために政府は“アメとムチ”を繰り返してきました。マイナポイント付与は“アメ”でしたが、マイナ保険証を使ったオンライン資格確認に参加しない医療機関には保険医の取り消しをチラつかせるという“ムチ”もありました。

31日の日経新聞の世論調査によると、マイナカードのトラブルへの政府対応について72%が「評価しない」と回答しています。交付税格差のようなやり方は、評価されるはずはありません。

各地のとくくみ

都内 「戦争ダメ」声あげよう 職場九条の会 東京・渋谷駅前宣伝

『戦争はダメ』の声をあげよう―。各業界で結成された「九条の会」が連携する「職場九条の会・共同行動実行委員会」は7月29日、東京・渋谷駅ハチ公前広場で共同宣伝を行い、約45人が参加しました。

リレートークで千代田九条の会の男性（77）は「憲法9条を生かした平和外交でアジアや世界に働きかけましょう」と訴えました。

20代男性が訴えをじっと聞いていました。宣伝スタッフが声を掛けると「憲法9条は知っている」と回答。男性は記者に「自民党やアメリカの政治を信じている。だけど、戦争は反対だ。むやみやたらに攻撃し殺しあうのは不平等だ」と言って立ち去りました。

宣伝スタッフは上着の色をブルーで統一。ティッシュに入れたチラシを配布し「大軍拡・大増税反対」署名を訴えました。

なかなかチラシも受け取らない若者に商社九条の会・東京の女性（79）は「大軍拡の問題は、高齢者の問題というより若い人の問題なのよ。気づいてちょうだい」とつぶやきました。

「職場九条の会・共同行動実行委員会」は2月に結成されました。海運、商社、銀行、出版、損保など10業界ごとに、その社員や出身者らに結成された「九条の会」10団体が集まったもの。共同宣伝は5月について2回目です。

埼玉 1月7日の「七夕宣伝」で、市民が短冊に平和の願い込める

「戦争させない！埼玉の会」が実施している金曜昼休み宣伝には、その時々の方々の市民の思いがストリートに反映されています。

今、市民の中に広がっているのは保険証を廃止し、マイナカードに紐づけする計画で、与党内からも実施時期の見直しの声が聞こえてきています。

それを反映して、マスコミの世論調査ではマイナ制度への不安が60%を超え、内閣支持率が28%（毎日）と急落しています。

7月7日の浦和駅頭での「七夕宣伝」では短冊に記入しながら岸田政権への不安を述べる人が多く、短冊には「平和」の願いが込められていました。また、7月21日の宣伝では、「猛暑で振り向いてくれる人がいるのかな」と不安を抱えての行動でしたが、意外にも次々と署名に応じる人が多く、久しぶりに順番待ちになりました。共通していたのは、軍拡・増税への批判と、マイナカード、暮らしの困難さでした。マイナカード廃止署名も集まりました。 <埼玉憲法会議 NEWS ききゅう 211>

川村俊夫さんを偲ぶ会 開催

九条の会と憲法会議は、7月29日に千代田区で、川村俊夫さんを偲ぶ会を開催しました。「憲法運動」に邁進し、憲法会議の事務局長・代表幹事、そして「九条の会」事務局として長年活動して来られた川村さん。2022年11月30日に亡くなられてから、8ヶ月が過ぎました。九条の会と憲法会議は、川村俊夫さんにご縁のあった方々にお集まり頂き、川村さんの思い出やエピソードを語り合いながら、故人が歩まれた足跡を振り返り、遺志をついで大軍拡・改憲を許さず、岸田政権とたたかう、これからの力にしたいと「偲ぶ会」を開催しました。

偲ぶ会では、長年九条の会の事務局として一緒に活動して来られた渡辺治さんが、川村さんの長年の奮闘を紹介し、「ご遺志を継ぎ、力を改憲阻止に向け奮闘しましょう」と開会あいさつを行いました。

その後、大学卒業後に数年間、憲法会議の事務局員として川村さんと活動していた池上東湖さん、学生の時に一緒に活動し、その後新婦人の会と憲法会議でそれぞれの道で80歳近くまで奮闘し合った元新婦人会長の高田公子さん、そして憲法の守りいかず運動を力を合わせたたかってきた日本共産党笠井亮衆院議員の3氏がスピーチ。

そして、九条の会の事務局として一緒に奮闘されて来られた高田健さん(総がかり行動実行委員会の共同代表)の発声で「献杯」を行いました。

ご歓談・お食事の後、ご出席いただいた方から「川村さんを偲んでスピーチ」していただきました。

最後に、憲法会議で長年代表幹事としてともにたたかって来られた石山久男さんが「川村さんが守り・いかそうと頑張ってきた憲法が大変な危機を迎えている。力を合わせてご遺志を引き継ぎ、奮闘しよう」と、閉会のあいさつを行いました。

偲ぶ会には50名の方がご出席されました。

<偲ぶ会に寄せられた川村さんへのお言葉>

- 「九条の会」発足当時に川村俊夫さんを知りました。最近まで、次々と論文を書かれ、憲法を守るために人生をささげられたと私には思えます。どうぞ、安らかにお眠りください。(吉川春子さん)
- 長い間、憲法運動の先頭に立ってこられたことに心より敬意を表します。ご遺志を胸に刻み、憲法と命輝く日本へ全力をあげます。たたかいを見守ってください。(井上哲士さん)
- 憲法専攻で名古屋大学大学院に入学して以来、今日まで40年以上にわたり、憲法会議や九条の会の活動でご指導下さりありがとうございました。今後とも長崎県九条の会で活動する所存です。(宮崎定邦さん)
- 川村さんがすでに80年代(もっと前から?)日本国憲法を守ることを一貫して主張され、政権の棄権な動きに対して、「炭鉱のカナリア」の役割を担ってこられたことを私はよく存じております。今もいっそうすすむ憲法破壊の動きに、私たちは手を緩めずたたかいます。(増渕智子さん)
- 広島憲法会議が停滞してどうやって活性化をと悩んでいた時に、広島まで来て頂き、話をして飲み交して再出発できました。遅れた感謝です。(石口俊一さん)
- 1965年憲法改悪阻止兵庫県各界連絡会発足以来、2005年あまくさ9条の会発足以来、川村俊夫さんには種々ご指導いただき感謝しています。心よりご冥福を祈念しています。(宮崎定邦さん)

